

飲水思源

町長

松岡市郎

文字から学ぶ詩人、野口雨情の心

野口雨情という名前はわれわれの世代なら必ず聞いたことがある。忘れていても「十五夜お月さん」「七つの子」「シヤボン玉」など、童謡の作詞者といえは思い出す。そのお孫さんである不二子さんが今月、旭岳の山開きに合わせて、仲間の方々とともに旭岳温泉まで来られた。茨城県から雨情の足跡を追って来られたのだ。

いただいた資料によると、雨情は1904（明治37）年、22歳で高塩廣（ひろ）さんと結婚。2児をもうけたが、1915（大正4）年に協議離婚し、1918（同7）年に中里つるといふ女性と再婚している。

不二子さんは、有名な童謡「七つの子」の中に出てくる「可愛い七つの子があるからよ」の「七つ」というのは、「カラスの子が七羽」ではなく、別れた妻との間にできた長男雅夫（不二子さんの父、当時7歳）を思っている歌である、と話しおられた。改めて詩を見ると

鳥 なぜ泣くの 鳥は山に 可愛（かわい）い七つの子があるからよ
可愛 可愛と 鳥は啼（な）くの 可

愛 可愛と 啼くんだよ

山の古巣へ 行つて見て御覧（ごらん）丸い眼をした いい子だよ

そういえば、よく「お歳はいくつ？」という表現で小さな子供に年齢を聞くと、子供は「3つ」とか「〇つ」と答える。

それでは「鳥」とは誰か。それは当時、あちこちを転々としていた雨情自身を「旅鳥」にかけて「鳥」としているのか、あるいは妻である（あつた）廣さん指しているのかも知れない、と勝手に推測する。こう考えて読んでみるとかわい子を感じる親の気持ちが分かる。

雨情は、1927（昭和2）年7月31日付けで、別れた妻廣さんあてに、旭川から茨城に葉書を出していた。不二子さんは今回、その葉書を持参されたのだ。

東日本大震災で津波が押し寄せる中、必死に守った保存資料の中から偶然に発見したそうである。

葉書からは、廣さんと長男雅夫と3人一緒に住んだ旭川での暮らしをのんでいる思いが伝わってきた。書き残されたものにはさまざまな物語があり、その文字、文章は当時の心を今に伝えている。

文化交流館 新刊図書・ビデオ案内

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています

貸し出し期間は、図書は1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間です。返却期間を守りましょう(夜間返却窓口もご利用ください)。



ツリー・オブ・ライフ
(映画、DVD)
ウォルト・ディズニースタジオジャパン

テキサスの田舎町で暮らしたジャックは、信仰に厚く男が成功するには力が必要だと信じる厳格な父と、わが子に無償の愛を注ぐ母との間で育った。やがて純真さを失い、そんな自分に傷ついていく。仕事に成功した今も幼いころに弟を亡くした、という子供時代のトラウマに囚われていた。時が経っても痛みを伴う回想の中で、心の平安を取り戻すことはできるのだろうか。(138分)



けんかにかんぱい！(児童書)
宮川ひろ／著
童心社／刊

あたらしいクラスになった先生は「けんかもいっぱいして、なかよしの3年1組にしよう」と言いました。係を決めるとき、和人は自分でかんがえて、黒板に「けんかどめ係」と書きました。ところが先生は「けんかはとめるものではないぞ。しっかりとやらせるものだろう」と言うのです。よくわからないと思いつつ、和人はけんかどめの「とめ」を取って「けんか係」になるのですが…。



ほっかいどうお菓子
グラフィティー(一般書)
塚田敏信／著、亜瑠西社／刊

お菓子博士の異名を持つ著者が全道各地から選んだ北海道の代表的なスイーツ58品。「旭豆」「きびだんご」「山親父」「古谷のキャラメル」「バナナ焼き」など、明治、大正、昭和の時代、子供の時に大好きだった懐かしい響きのお菓子の名前と写真がずらり。誕生ドラマから味の秘密までを解き明かします。読めばきつと食べたくなります。お菓子が物語る北海道の歴史、あなたはどれくらい北海道のお菓子を知っていますか？